

地球環境への一途な想いを胸に 破竹の勢いで事業を拡大

製品開発を強みとし、急成長を続けるグローバル・リンク株式会社。自然エネルギーでの発電事業に加え、ノンフロン自然冷媒ガスの製造や医療廃棄物のリユース事業など、日本の未来を変える事業が、次々と進行している。

文/大根田康介

FILE02

the future of energy
Global Link.

グローバル・リンク株式会社

本社：東京都千代田区有楽町1-12-1
新有楽町ビル8階

☎03-6269-9660 globallink.co.jp

4TH STAGE 発電事業の快適化

メガソーラーの点検や防犯を手軽にし、発電所の運営を快適に行うための製品も次々と開発。空撮用ドローンやヘリコプターやソーラー街路灯、オリジナルの次世代環境型電動スクーターなど、発電所オーナーの声に応じてすぐに製品化する。

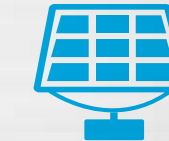


3RD STAGE ノンフロン自然冷媒ガス (G-POWER)

主力製品のノンフロン自然冷媒ガス。エアコンや冷蔵庫などには熱(冷熱)を搬送する冷媒が使われる。以前は冷媒にフロンが使われ、オゾン層破壊という問題があった。他社製品と決定的に違うのは、オゾン破壊係数ゼロ、地球温暖化係数1で、空調・冷蔵・冷凍の電力を最大50%、平均でも29.7%の削減が期待できるという点だ。

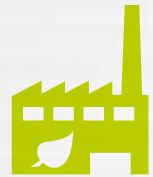
2ND STAGE 太陽光発電 (メガ)

システム設計から稼働後の保証・メンテナンスまで産業用太陽光発電所をトータルで手掛ける。環境・条件に合わせたモジュール特性の最大活用と、システム全体の最適化設計で顧客に最適なプランを提案する。現在は外資からの案件で強みがある。今後、英語、中国語、スペイン語などで交渉できるスタッフを順次増やしていく予定とのこと。



5TH STAGE 地熱発電

蒸気を利用した地熱発電を手がける。町おこしとしての企画を提案している。雇用の創出を前提に、「地域のビジネス」にするというのが、基本コンセプト。虫がたくさんいるような街の案件もあり、「そういう街を汚してはいけない」というのは重々わかっています」という(富樫社長)。現在は主に九州、東北地方で事業が進行中。



1ST STAGE 太陽光発電 (G-SOLAR)

小型太陽光発電と蓄電システムを組み合わせた「G-SOLAR」。東日本大震災の直後に設立した同社が、住宅、オフィス向けなど規模に応じて太陽光発電システムを活用できるよう開発、サイズも400Wから1.2kWまでの4種類を販売している。小型タイプなので、ベランダやバルコニー、庭などにも設置できる。角度調整ジョイントにより、パネルの角度調整も可能。

グローバル・リンク
「再エネ事業の軌跡」



グローバル・リンク株式会社
代表取締役社長
富樫 浩司氏

太陽光・地熱・
バイオマスを軸に
医療分野にも乗り出す

小型太陽光発電と蓄電システムを組み合わせた「G-SOLAR」の販売から始まったグローバル・リンクが、破竹の勢いで事業を拡大している。

同社の絶対的な強みは、「自社でモノづくりができる」点にある。なにせ、社長自らが設計図面をひき、開発に携わる事で、顧客の要望を即座に製品として具現化できるのだ。

「世に無い新しい製品開発を常に考えており、近い将来には石油製品を元の化石エネルギーに戻すプラント事業にも参入する予定です」と、同社の富樫浩司社長は語る。

主力事業は、産業用太陽光発電設備の設計・施工からメンテナンスまでのトータルソリューションの提供。「来期にかけて500 MWの案件を既に獲得しており、今後も間違いなく伸びるでしょう」と、さらに自信をのぞかせるが、一方で「太陽光は

2〜3年で下火になると思っています」と冷静な分析も披露する。そして、その分析を元に同社は、地熱バイナリー発電、バイオマス発電にも着手、太陽光発電に加えて、3本柱の事業計画を立てているのだ。

「いずれも町おこしの観点から、雇用を増やし、地域のみんながビジネスしようという考え方で取り組んでいます」(富樫社長)。

さらに同社は、エボラ出血熱、SARS、MERSなど世界中で様々な感染症が問題視される中、REIMEDICALという新会社を設立。今年6月、感染を完全に防ぐ滅菌装置「EcoAngel」と、滅菌処理された医療廃棄物を原油に戻す油化装置「Eco-Ace」(Eco-Ace)の開発に成功した。すでに国際空港や国立病院、大手病院などからも受注、フル生産状態で7月中旬からは28基を施工・配置する予定で、さらなる量産体制を築くため、来年3月完成予定で、千葉県に自社工場を建設するという。

「今まで廃棄していたものを、医療施設が『EcoAngel』でインゴットにし、それを当社が回収して『Eco-Ace』で油に戻せば、燃料としてリサイクルできます。CO2削減と排出者責任の遂行だけでなく、トータルコスト削減にも貢献できるので」。

さらに同社では、風力発電システ

6TH STAGE 滅菌装置 (エコ・エンジェル/エコ・エース)

全自動制御超小型湿式溶融滅菌装置が「エコ・エンジェル(Eco-Angel)」。滅菌処理された医療廃棄物を、原油に戻す油化装置が「エコ・エース(Eco-Ace)」。これまで感染の危険性があるとされていた医療廃棄物のうち、樹脂系医療廃棄物をA重油に相当する再生油に還元、リサイクル資源として活用するのが目的。CO2削減と排出者責任の遂行、トータルコスト削減に一役買う。



エコ・エンジェル
4000タイプ



油化装置エコ・エース

ム「G-WING」も手がけている。従来のプロペラ型はベアリングの磨耗で大きな音が出ていたが、この製品は磁石の力を使って軸を浮かせることで音が出ないようにするなど、随所に工夫が凝らされている。これら事業拡大の根底には、「積み重ねてきたエネルギー・環境技術開発の成果を世の中に還元し、日本に安心した未来を届けたい」という、起業時から変わらぬ、富樫社長の環境に対する一途で熱い思いがある。同社の事業展開にブレがなく、時代の要請に即応するスピード感と力強さがあるのは、確かな技術力に加えて、この「思い」があればこそなのだ。

7TH STAGE 小形風力発電 (G-WING)

売電価格は54円と高額ながら、20kW以下の小型風力発電については、まだ設置事例が少ないところに着目、20kW売電型システムを開発・販売する。従来のプロペラ型はベアリングの磨耗による騒音の問題があったが、同社は磁石で羽を浮かせることで磨耗音をなくした。プレートを8枚から3枚に減らし、遠心力も向上。分解・組立ができるメリットも。研究には、実に3年を費やしたという。

